

I 研究の概要

1 研究主題

自分で考え、学びを進める子の育成
～国語科を通して、自分の考えを広げ、深める～

2 研究主題設定の理由

1. 昨年度の研究成果と課題

昨年度は「主体的に学び、学びを実感できる授業づくり～児童に学びを委ねるために～」を主題に、算数科における「見通しの持たせ方」と「学びの深め方」を重点に実践を重ねてきた。単元デザインシートの活用により、児童が既習事項を基に見通しを持つ力は向上した。

しかし、指導側が手立てを講じすぎたことで、多様な考えの創出を妨げた面も見られた。また、対話の場面では「考えの表出」に留まり、深い学びへつなげる「必要感のある対話」にまで至らなかったことが課題として残った。

2. 今年度のねらいと国語科への展開

これらの課題を受け、今年度は研究教科を国語科に移し、多様な視点からの読みが可能な「読むこと」の教材を中心に据える。個別最適な学びと協働的な学びを往還させ、「多様な考えに触れたい・知りたい」という児童の主体的な姿を引き出す授業を目指す。

また、本校として国語科の研究に初めて取り組むに当たり、児童が言葉の働きに着目する「国語科の見方・考え方」を自ら働かせ、自分の考えを形成していくための「手立て」も明らかにしたい。

具体的には、キーワードを「もつ」「つなげる・広げる」「掘り下げる」とし、研究の前半期は単元全体を通した「つけたい力を明確にした授業デザイン」(単元構想)に、後半期は1時間の授業内における「見取りと指導・支援」に重点を置いて研究を推進する。

3. 目指す児童像

個別最適な学びと協働的な学びのバランスを保ちながら、他者の考えを取り入れて自分の考えを更新する喜びを実感させる。児童が「わかった」「できた」という達成感を持ち、「もっとやりたい」と主体的に学びを深めていく姿を目指したい。

3 研究の内容

重点①「もつ」:思考の基盤づくり

教師: ねらい達成のための言語活動の設定。

教師: 言葉の働きに着目し、多様な読みを誘発する「問い」の設定。

児童: 叙述を根拠に、自分なりの考えを持つ。

重点②「つなげる・広げる」:対話のコーディネート

教師: つけたい力を明確にした言語活動と、個別・協働が往還した単元デザインシートの作成。

教師: 一人ひとりの考えを可視化し、共通点や相違点をつなぐ見取りと支援。

児童: 友達の考えを自分の読みと照らし合わせ、視野を広げる対話。

重点③「掘り下げる」:変容の自覚化

教師: 読みの深まりを促す「ゆさぶり」の発問と、思考を整理する板書。

児童: 振り返りを通し、対話前後の自分の考えの変容を自覚する。

4 研究の進め方

【前半期】授業デザイン(重点①②)

単元デザインシートの作成: つけたい力と評価規準を明確にし、ゴールから逆算した学習計画を立てる。

見方・考え方の位置づけ: どの叙述に着目させれば思考が動くかを検討する。

【後半期】見取りと指導・支援(重点②③)

見取り: 児童のつまずきや児童の考えの流れを捉え、発問や手立て(ICT 活用等)に繋げる。

振り返りの質向上: 「ついた力」を確認し、次の学びへの意欲を高める振り返り指導。

5 検証方法

(1) 学校アンケート

児童向けアンケートにおいて、「国語の学習は好きか」「友達の考えを聞いて自分の考えが深まったと感じるか」等の項目を、4月当初と中間、年度末で比較分析する。

(2) 抽出児の変容の追跡(重点①・③の検証)

各学級で実態の異なる児童(3 名程度)を抽出し、単元を通したワークシートや振り返りの記述を蓄積する。

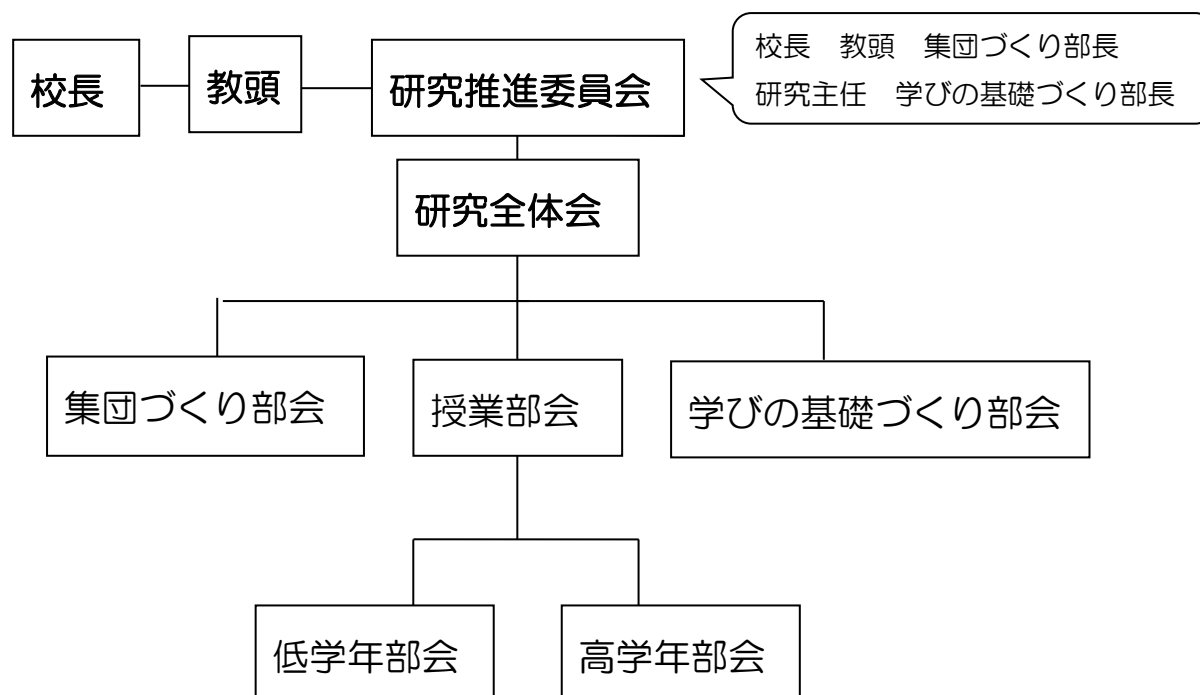
(3) 研究授業における発話分析(重点②の検証)

研究授業において、グループ対話や全体交流の様子を記録する。

(4) 「見取り」記録(重点②・③の検証)

日常の授業や研究授業において、教師が机間指導中に見取った「児童の鋭い反応」や「対話による変容の瞬間」をにメモし、蓄積する。

6 研究組織



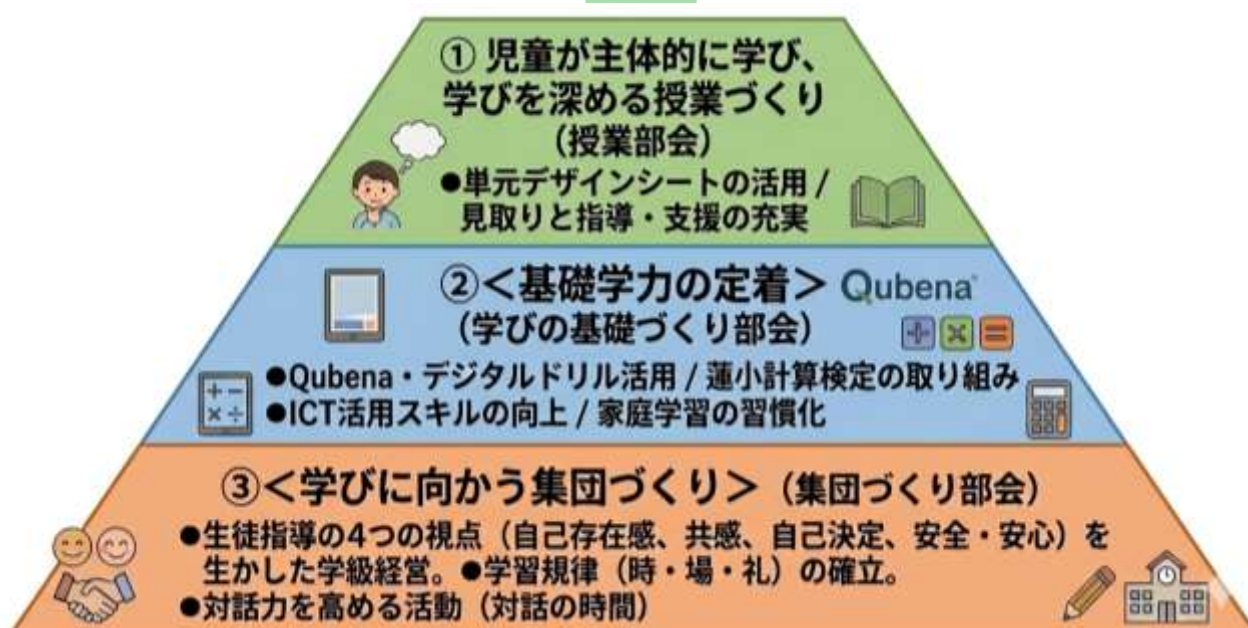
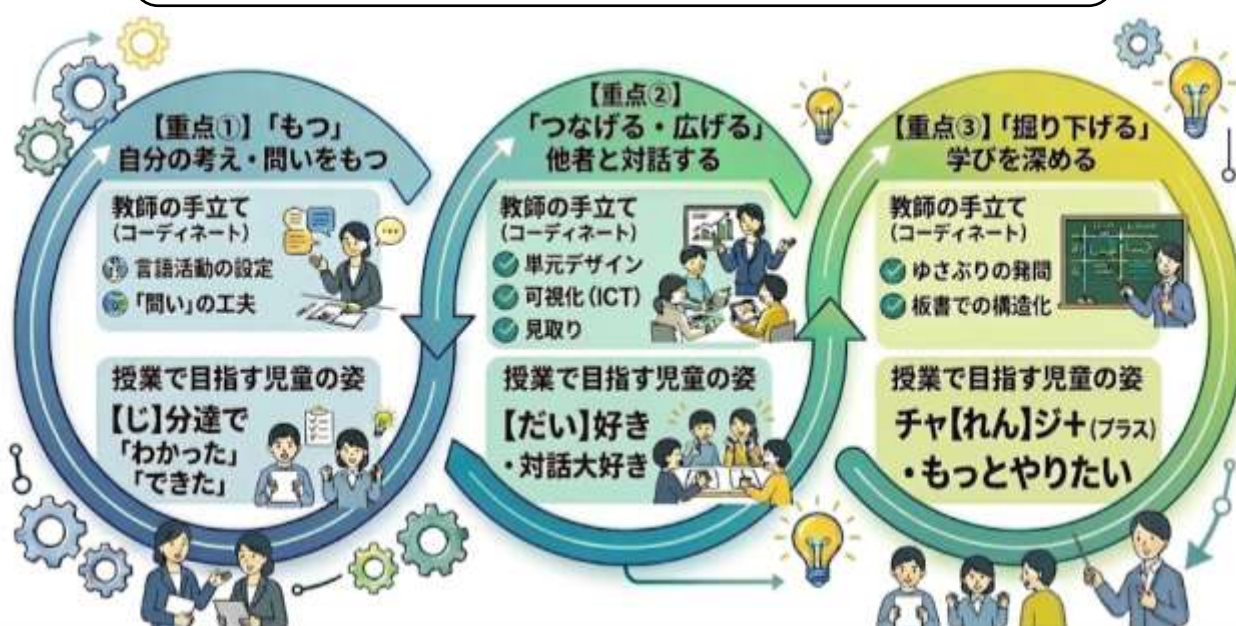
	内容	構成とメンバー
研究主任	・研究の全体計画、研修計画の立案・実施 ・研究全体会の企画・運営 ・研究授業・授業整理会の企画・運営 ・研究物についての提案・総括	茶谷
学びの基礎づくり部会	・基礎的な学習内容の定着のための取り組み ・ICT 活用のスキルの向上を目指した取り組み	○塩谷・村田・田中
集団づくり部会	・学習規律の取り組み ・「対話の時間」の取り組み ・温かな人間関係づくりの取り組み	○菅波・北角・庵地
授業部会	・授業力向上の取り組み	○茶谷・丸山
授業部会(低)	・指導方法・学習活動の工夫 ・模擬授業や指導案検討 ・研究授業	○茶谷・田中・村田・丸山 ・教頭
授業部会(高)	・児童アンケート(学校評価)の実施 ・研究フィードバックの作成	○菅波・塩谷・北角 庵地・校長

6 研究全体構造図

学校教育目標：自ら学び、協働し、未来を拓く児童の育成

めざす児童像：チャ【れん】ジ+・【だい】好き・【じ】分達で

自分で考え、学びを進める子の育成
～国語科を通して、自分の考えを広げ、深める～



Ⅱ 研修計画

月	日	研修	内容等
4		研究全体会①	今年度の研究の方針・検証の方法・研究組織・研修計画の提案、単元デザインシートの提案 対話の時間についての提案
5	上旬		1学期の単元デザインシートの作成→実践
5		研究全体会②	指導案の形式の提案・授業整理会の提案
7	上旬	学校評価	児童アンケートの実施・集計、教員アンケート
7	下旬		2学期の単元デザインシートの作成
8		部会(低・高)	年指導案検討
8	25	研究全体会③	1学期のまとめと2学期の取組について
9		模擬授業	年模擬授業
9		研究授業・授業整理会	年研究授業・授業整理会
10		模擬授業	年模擬授業
10		研究授業・授業整理会	年研究授業・授業整理会
12	中旬	学校評価	児童アンケートの実施・集計、教員アンケート
12		部会(低・高)	研究のまとめについて
12	下旬		単元デザインシートの実践の振り返り② 3学期の単元デザインシートの作成
1		研究全体会④	研究のまとめと次年度の研究に向けて
2	下旬		児童アンケートの実施・集計、教員アンケート
2	下旬		単元デザインシートの実践の振り返り③
3		研究全体会⑤	次年度の研究の方向性について

・研究全体会の前に**研究推進委員会**を行う。